



新聞で  
読解力アップ!

ワークシート

# ブドウの苗木「足りない」

## 「日本ワイン」人気で

国産ブドウ100%の「日本ワイン」の人気がともにブドウ用ブドウ苗木が全国的に不足し、道内のワイナリー（ワイン醸造所）や農家が対応に苦慮している。道が最近まとめたアンケートでは、苗木が足りず「困っている」と答えた生産者が45%に上った。このままではブドウの増産や老木の更新も難しくなり、道産ワインのブームに水を差しかねない。

岩見沢市の宝水ワイナリーは9秒でブドウ用のブドウを栽培している。大雪で傷んだ木の更新のため、年間千本ほどの苗木を道外の業者に注文しているが、5、6年前から約300本しか入手できなくなった。倉内武美社長(72)は「苗木の流通量が減り、大幅な更新は現状では難しい」と嘆く。

本州では1本の木で約40年収穫できるのに対し、道内では厳しい寒さで負担がかかり、短期

## 道内醸造所、増産に苦慮

間での更新が必要だ。苗木作りも難しく、全国に十数社ある業者のうち、道内の農家は山形県などから仕入れている。

道内でブドウ用ブドウを生産する160のワイナリーや農家を対象に道が昨年行ったアンケート（回収率62%）では、45%が苗木不足で「困っている」と回答し、「困っていない」の36%を上回った。生産者が今後3年間で求める苗木計15万本のうち、入手のめどが立っているのは14%分にとどまった。

不足の要因は、日本ワインの人気を背景とする全国的なワイン醸造、栽培への参入増だ。道内のワイナリーは現在、後志や空知などの35カ所となり10年前の2倍以上になった。

山梨県の苗木業者「植原葡萄研究所」は、苗木の受注から納入まで2年かかるという、「栽培の人手も限られ、すぐに増産できない」。山形県の「菊地園

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしよう。

北海道新聞朝刊 2018年5月1日(火)

空知管内のワイナリーにあるブドウ畑。全国的に苗木が不足し、生産者は頭を悩ませる(2017年6月)



芸も「ブドウは他の果樹より栽培に手間がかかり、供給量に限りがある」と話す。

需給逼迫で、苗木の価格も上昇気味。主にドイツ原産種を育てる後志管内蘭越町のワイナリー「松原農園」の松原研二さん(59)は「苗木不足と価格上昇が新規参入の障壁となり、道産ワインブームに水を差しかねない」と懸念する。道農産振興課は「生産者が苗木を自家栽培できよう、技術向上に力を入れる」とし、今後具体策を検討する方針だ。(石橋治佳)

(1) ブドウの苗木が全国的に不足している理由を次のようにまとめます。\_\_\_\_\_に当てはまる言葉を書きなさい。

①「日本ワイン」の人気で \_\_\_\_\_ が増え、苗木の需要が増えたから。

②ブドウの苗木は \_\_\_\_\_ ため、苗木の増産が難しいから。

(2) 苗木不足は、道産ワインの増産をさまたげ、道産ワインブームに水を差す可能性があると考えられています。その理由を次のようにまとめるとき、\_\_\_\_\_に当てはまる言葉を、記事中からそれぞれ書きぬきなさい。

①ブドウの生産者が \_\_\_\_\_ をすることが難しくなるから。

②苗木不足と苗木の \_\_\_\_\_ によって、新しい事業者が参入しにくくなるから。

(3) 苗木不足を解消するために、道ではどのような方法を考えていますか。

\_\_\_\_\_